



ほうさ 第28号

1986年10月

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hōsabunko

展示風景

尾張藩主の蔵書 —二代光友から四代吉通まで—

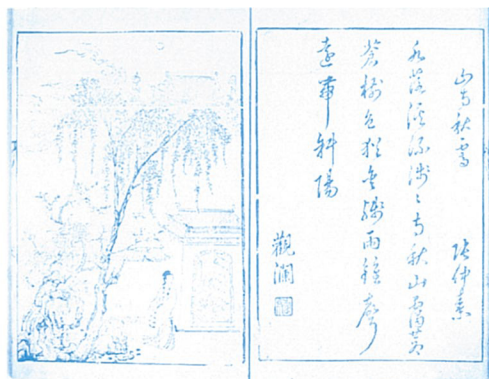
10.4(土)～12.7(日)
[11.6(木)・7(金)展示替休室]

現在の蓬左文庫が所蔵する8万点を越える蔵書の8割以上は、かつて尾張藩の御文庫に所蔵されていたものである。そして、その主要部分を占めるのが、義直、光友をはじめとする歴代藩主の収集した蔵書である。昨年秋の展示「徳川義直の蔵書と著述」で御文庫の基礎となった初代藩主義直の蔵書を紹介したのにつづいて、今回は、二代藩主光友から四代藩主吉通まで、三人の尾張藩主の蔵書を紹介する。この時期には、御文庫の機構整備が行われ、義直の遺志をついで、広く各分野にわたって蔵書の充実が計られると同時に、各藩主の個性の現われた書物の収集が行われている。

二代藩主光友は、寛永2年(1625)、初代藩主義直の長子として誕生した。慶安3年(1650)、義直の死去にともなう藩主となり、元禄6年(1693)、68歳で隠居するまでその治世は43年におよんでいる。常に武芸に励み、厳格な性格と伝えられる一方、文学とくに和歌を好み、天和3年(1683)に佐野紹益(京都の富商、和歌、茶道に通じた)から古今伝授を受け、画は狩野探幽等に学ぶなど、残されている作品も多い。また、書においては、後西院天皇、関白近衛信尹とともに三蹟に称せられるほどで、幼くして光友に嫁した千代姫(家光の娘)に、自ら書の手本を書いて与えたという逸話も伝えられている。駿府の家康の膝下、優れた学問的、文化的環境のもとで少年時代を過した義直がその志向に、スケールの大ききとともに、粗野で荒けずりな一面を残していたと思われるのに対し、優れた武将としてだけでなく、文化人としても洗練された教養を身につけた光友は、太平の世にふさわしい尾張藩主であったと言える。

光友は、義直の死後まもなく、約19,000点と推定される義直の蔵書をそのまま引きついでいるが、光友自身の蔵書も、記録によって明かなものだけで318件4,091点におよんでいる。その内容は、当時の中国の新刊本を重視して、広く各分野にわたっており、義直の収集方針を受けついでいることがわかる。その中でも、画譜など絵画、書道関係などの書物が多いこと、和書では、和歌書が多く、古典の注釈書などに優れた古写本が含まれていること、さらに、儒教の基本文献にあたる経書の全体に占める割合が、義直の蔵書に比べて高いことなど、光友の個性が現われた蔵書内容となっている。

また、光友の時代には、御文庫の機構整備が行われている。まず、万治元年(1658)、書物奉行が設置された。それまでも御文庫の書籍を管理するものは存在したが、この時に、初めて職制上専任の書物奉行が置かれ、以後、ほぼ定員2名で幕末まで存続している。つぎに、寛文3年(1663)頃から元禄年間(1688～1703)までの間に、一般に「御文庫」と呼ばれることとなる書物倉が新築されている。この後、この書物倉には、家康から譲り受けた駿河御譲本を含む義直の蔵書をはじめ歴代藩主の蔵書が収められ書物奉行の管理下に置れる一方、当代の藩主が使用する書籍については、後に「奥御文庫」または「御側御文庫」と呼ばれる別の書物倉に収められ、藩主の側近によって管理されるという御文庫の機能分化が進められることとなるのである。



「唐詩画譜」(光友蔵書)

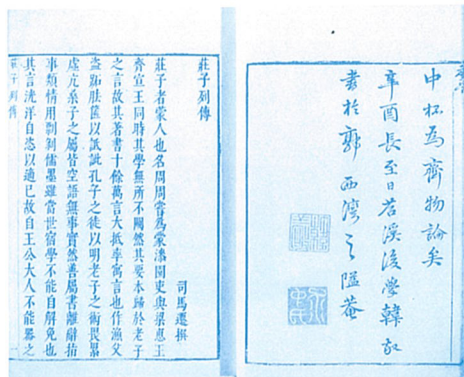
三代藩主綱誠は、承応元年（1652）、光友と千代姫の長子として誕生し、光友の隠居とともに31才で藩主となるが、父光友に先立って、元禄12年、48才で亡くなっている。綱誠の蔵書については、彼の治世が光友の存命中と重なることもあり、記録上では明確に区別されていないものが多いが、綱誠蔵書として記録に載せられているものでは22件約1,000点が数えられる。この中には、吉見幸和、天野信景等に編纂を命じ、綱誠の死によって未完に終わった「尾張風土記」の草稿、同じく綱誠の命により、義直の事跡をまとめた「敬公御徳義」を編纂した松井甫水の献上による「解莊」、義直の編纂した「成功記」の二種類の写本などが含まれているほか、元禄11年、市ヶ谷への将軍の御成のために和版の「易経集註」と「四書集註」を30部宛も購入するなど興味深い記述も見られる。

綱誠の蔵書については、書物奉行の管理下にあったものは、明治5年にすべて払い出されてしまっており、現在残っているものは数件にすぎない。

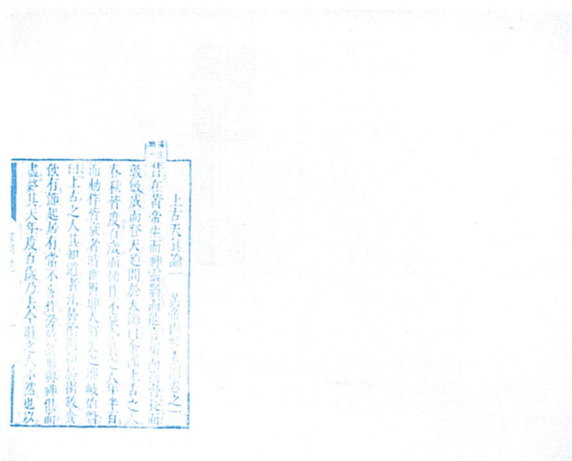
四代藩主吉通は、元禄2年（1689）、綱誠の第十子として誕生し、綱誠の死によって、10才で藩主となるが、正徳3年（1713）、25才の若さでこの世を去っている。吉通の性格については、記録によって甚だしく評価が異っている。吉通の側近であった近松茂矩の著した「昔咄」等の描く吉通は、文武に優れた藩主であるが、尾張藩士朝日文衛門の日記「鷄鵲籠中記」に登場する吉通は、酒好きで、節度がなく、その死は、大酒が原因であったという風聞を伝えている。

吉通の蔵書は、記録に残っているものだけでも、約1,700件3,000点、内、約160点の軍学書を除くと、すべて医学書である。吉通は、珍しい医学書や薬を集めて研究し、自ら薬を調合したとされ、また医者を集めて輪講を行うなど、医学への関心は並大抵ではなく、それは、目録からも伺うことができる。寛保3年（1743）の目録によると、当時吉通の医書は、本箱に納められた4件423冊の他は、七つの長持に納められていた。1番、中国の医学書約300点、2番日本の医学書約200点、3番外科・金瘡書・馬書約500点、4番婦人書・小児書・眼書約300点、5～7番その他約1,200点である。特に5～7番には写本が多く、大部な医学書の一部の写しや、「御写掛の御本」と記されたものもあり、吉通自身の手になる写本も数多く含まれていたものと思われる。これらの医書の装幀には「花色金題箋」と記されたものが多く吉通の好みを伺わせる。（花色＝^{はなだ}繹色、露草の色）また、手元に置かれた蔵書数の多さによるものか、吉通の時代の一時期に限って、御側御書物奉行が置かれている。吉通の蔵書の内、書物方の管理下にあったものは、永正年間写の「太平聖恵方」51冊を除いて、明治5年の払い出しによってすべて処分された。しかし、藩主の側近の管理下にあったものでは残っているものもあり、この中には、吉通に医学を指導した轟竹隠の著作をはじめ、花色の表紙に金題箋の書物が数件、今も蓬左文庫に所蔵されている。

※「蓬左23号」では、吉通の収集した医書について、「明治初年の払い出しによって全て処分されてしまっている。」としたが、その後、山本祐子氏によって現存する蔵書目録の性格が明かにされたことから、蓬左文庫に現存する吉通の医書を確認することができた。



「解莊」（綱誠蔵書）



〈参考文献〉

- 山本祐子「尾張藩『御文庫』について」(1)(2)『名古屋博物館研究紀要』8・9、1985・1986
横井在時「尾張藩御文庫と御書物奉行」(『郷土文化』141号)1985
『名古屋市史』政治編2・人物編1、1915

「黄帝内经素問」（吉通蔵書）

寸法（表紙）35.6×23.7 匡郭 21.0×14.3

（表紙）花色（題箋）金（料紙）鳥の子

（印記）張府内庫図書、張藩図書

上記のように、料紙に鳥の子を使用した大型本であるのに比べ、版木の小ささが目立つ本である。長友千代治氏の御教授によると、本書は、既存の版木を使って上質の大版の紙に刷らせた特注本。装幀から見て吉通の蔵書の一つと推定され、吉通のために刷られた可能性も高い。

「尾張藩主の蔵書」出品目録

藩主伝記・著述

一光 友一

1. 続岩淵 写 3巻1冊
2. 垂槐光友卿御詠 徳川光友 江戸中期写 1冊

一綱 誠一

3. 泰心院源誠公御行状 成田次充述 河村時秀補 写 1冊

一吉 通一

4. 円覚院様御伝十五箇条 徳川吉通述 近松茂矩編 明和元年写(編者自筆本) 1冊
5. 円覚院様御伝十五ヶ条輯録来由 近松茂矩 明和元年写(自筆本) 1冊
6. 昔咄 近松茂矩 元文3年写(自筆本) 7巻7冊

蔵書目録

7. 瑞竜院様泰心院様御代御書籍 寛保3年写 1冊
8. 御文庫御書籍目録 写[寛政年間] 12冊
9. 円覚院様御代之御医書 江戸中期写 1冊
10. 御側御文庫御書目 写[文化13年] 2冊

藩主蔵書

一光 友一

11. 礼記日録(明)黄乾行撰 嘉靖年間刊 31巻11冊
12. 春秋左伝属事(明)傅遜撰 万暦年間刊 20巻10冊
- △13. 五経大全(明)胡広等撰 朝鮮刊 121巻73冊
14. 五経図(明)章達等撰 刊(万暦42年序) 6巻1冊
15. 新鐫四書七十二朝人物経籍備考(明)薛应旂原輯 鍾惺增訂 明末刊 25巻20冊
16. 二十一史(明)成化~正徳年間刊 嘉靖~万暦年間修補 2033巻471冊
17. 孔孟像図讃 万暦26年刊 2巻1冊
18. 新刻歴代聖賢像賛(明)孫承恩撰 万暦21年刊 2巻2冊
19. 七十二賢像賛 同 2巻1冊
20. 漢寿亭侯志(明)趙欽湯撰 刊(万暦28年序) 8巻6冊
21. 吾学編(明)鄭曉撰 万暦27年刊 69巻24冊

22. 歴代君鑑(明)景宗撰 景泰四年刊 50巻10冊
23. 孔廟礼楽考(明)瞿九思撰 董漢儒校 刊(万暦35年序) 7巻5冊
24. 南京刑部志(明)龐嵩撰 呂欽・呂炳訂 嘉靖34年刊(万暦年間修補) 4巻4冊
25. 山海経広註(清)呉任臣撰 刊(康熙5・6年序) 23巻6冊
26. 中庸九経衍義(朝鮮)李彦迪撰 朝鮮刊 29巻11冊
27. 五倫書(明)宣宗撰 正統12年刊 62巻31冊
28. 陰遁書・陽遁書 写(明代) 18巻18冊
29. 万宝全書(明)艾南英撰 刊(明末) 35巻6冊
- 30. 施氏七書講義(金)施子美撰 刊(慶長・元和年間) 42巻20冊
31. 八陣図秘法(明)喻汝礪撰 刊(明代) 1巻1冊
32. 海防纂要(明)王在晋撰 刊(万暦41年序) 13巻6冊
33. 千字文註(清)孫呂吉注 蔡汪琬校 刊(清代) 1巻1冊
34. 歴朝聖賢篆書百体千文(清)孫枝秀撰 刊(康熙24年序) 1巻1冊
35. 画苑(明)王世貞撰 刊(明代) 37巻10冊
36. 金氏画譜(明)金氏編 刊(明代) 2巻4冊
37. 歴代名公画譜(明)顧炳編 刊(万暦31年序) 4冊
38. 唐詩画譜(明)黃鳳池編 刊(万暦~天啓年間序) 5巻5冊
39. 欣賞編(明)沈津編 刊(明代) 201巻20冊
40. 燕間四滴(明)孫不顕編 刊(万暦39年序) 20巻3冊
41. 韻海全書(明)李廷機撰 万暦23年刊 16巻6冊
42. 海編大全(金)韓孝彦校 刊(万暦30年序) 15巻8冊
43. 刻杜少陵先生詩分類集註(唐)杜甫撰(明)邵宝集注(日本)鶴飼信之点 明暦2年刊 23巻24冊

吉通の蔵書に見られる蔵書印



「張藩圖書」印(46×22mm)

前記のように、吉通の蔵書で現在当文庫に残っているのは、藩主の側近の管理下にあった書物倉(内庫または御側御文庫・奥御文庫)に納められていた書籍である。このため、この御書物倉の印である「尾府内庫圖書」「張府内庫圖書」(「蓬左第4号」参照)の印が全冊の巻頭にあるものがほとんどである。また、この場合、第一冊の巻頭に「張藩圖書」の印が捺されている場合が多い。「張藩圖書」印の使用目的については、現在のところ不明であるが書物の移動と何らかの関係があるのではないかと推定される。

光友の蔵書に見られる蔵書印



「尾陽文庫」印
(67mm方形印・縮小率1/2)

光友の蔵書とされるものには、蔵書印がないのが、通例のようなのである。ただし、「今昔物語」など例は少ないが、「尾陽文庫」印(「蓬左第24号」参照)を捺したものがある。この場合には、全冊の巻頭に捺されている。

44. 寓惠録 (宋)蘇軾撰 万曆37年刊 5卷2冊
- △45. 正氣堂集 (明)俞大猷撰 李杜編 刊(嘉靖年間) 30卷12冊
46. 南州草 (明)徐必達撰 刊(天啓元年間) 34卷24冊
47. 念菴羅先生文集 (明)羅洪先撰 刊(嘉靖年間) 17卷10冊
48. 瀛奎律髓 (元)方回批選 刊(成化11年序・朝鮮古活字本) 49卷10冊
49. 重校正唐文粹 (宋)姚鉉編 刊(嘉靖6年序) 100卷18冊
50. 神代卷述要 江戸初期刊 19卷30冊
- ◎51. 神皇系図 江戸初期写 1冊
52. 皇代記 同 1冊
53. 中臣板註 同 1冊
54. 神光興耀記 同 1冊
55. 公卿伝 同 32卷32冊
56. 官職便覧 中原職忠 同 55卷55冊
57. 雲図抄 冷泉朝隆 同 1軸
58. 貴嶺問答 中山忠親 同 1冊
- △59. 元秘抄 高辻長成 同 4卷4冊
60. 三条中山口伝 三条実房・中山忠親 同 5卷5冊
- △61. 北山抄 藤原公任 同 6卷6冊
62. 西宮記 源高明 同 20冊
63. 小右記〔野府記〕 小野宮実資 同 20冊
64. 迎陽記 東坊城秀長 同 13冊
65. 園太曆 中園公賢 同 37冊
66. 康富記 中原康富 同 20冊
67. 魚魯愚抄 平田職忠 同 16卷16冊
68. 古今和歌集序(真名序) 慶長年間写 1冊
69. 百人一首抄 細川藤孝 同 1冊
70. 宗祇短歌 宗祇著 宗長註 慶長10年写 1冊
71. 玉吟集〔壬二集〕 藤原家隆 江戸初期写 1冊
72. 新和歌類句集 同 28冊
73. 初学和歌式 有賀長伯 元禄9年刊 7卷7冊
- △74. 花屋抄 花屋玉栄 慶長8年写 4冊
75. 源氏物語聞書 江戸初期写 43冊
76. 耳底記 細川藤孝 寛文元年刊 3卷2冊
- △77. 今昔物語集 江戸初期写 31卷28冊

78. 三河物語 大久保忠教 同 3卷4冊
79. 將軍家譜 林道春 同 3卷3冊
80. 騎射秘抄 小笠原浄元 同 1軸
81. 犬追物語 小笠原元長 同 1冊
82. 甲陽軍鑑 万治2年刊 20冊
83. 農業全書 宮崎安貞著 貝原義質補 元禄10年刊 11卷11冊
84. 三国筆海全書 真幸正心 慶安5年刊 20卷20冊

一網 誠一

85. 解莊 (明)陶望齡撰 郭正城評 刊〔天啓元年〕 12卷6冊
86. 創業録 山下時氏 江戸初期写 42卷43冊
87. 公方様御成留記 同 58冊

一吉 通一

- ◎×88. 黄帝内經素問 江戸中期刊 9卷9冊
- ◎×89. 黄帝内經靈樞 同 9卷6冊
- ◎×90. 黄帝内經素問註證發微 (明)馬蒔撰 寛永5年刊 10卷12冊
- ◎×91. 黄帝内經靈樞註證發微 (明) 同 9卷6冊
- ◎×92. 傷寒論 (漢)張機撰 (晋)王叔和編 (金)成無已注 刊(清代) 7卷5冊
- ◎×93. 同 (清)張志聰注 高世栻編 刊(康熙22年序) 6卷6冊
- ◎×94. 傷寒證治明條備覽 (明)王震撰 万曆6年刊 6卷6冊
- ◎×95. 傷寒述微 (清)李杲撰 刊(順治3年序) 3卷1冊
- ◎96. 救急方 刊(朝鮮) 2卷2冊
- ◎97. 太平聖惠方 (宋)王懷隱撰 (日本)永正年間写 100卷51冊
- ◎98. 鶴林医綱 轟竹隱 江戸中期写 9冊
- ◎99. 医家秘鑑 同 13冊
- ◎100. 図法鍼灸経 同 1軸
- ◎101. 本草発明蒙筌 (明)陳嘉謨撰 王肯堂校 刊(明末) 14卷8冊
- ◎102. 本草原始附雷公炮製 (明)李中立撰・画 刊(明代) 12卷8冊

○印「御本」印記 △印「尾陽文庫」印記 ◎印「尾府内庫図書」「張府内庫図書」「内庫之印」印記 ×印「張藩図書」印記

尾張徳川家一覽 (初～四代)

代	名	法 号	謚	幼 名・別 名・字	生 母	家 督	生没年・享年
初代	よしなお 徳川義直		敬公	五郎太 義知 義利 子敬	家康側室 於亀ノ方(相応院)	慶長12 (1607)	慶長5～慶安3 51歳
二代	みつとも 光友	瑞龍院天蓮社順譽源正	正公	五郎太 五郎八 藏人 越後 出雲 光義 子竜	義直側室 於尉ノ方(觀喜院)	慶安3 (1650)	寛永2～元禄13 76歳
三代	つねり 綱誠	泰心院正譽徹庵	誠公	五郎太 綱義 子明	光友正室 千代君(靈仙院)	元禄6 (1693)	承応1～元禄12 48歳
四代	よしみち 吉通	円覚院賢譽知紹	立公	藏太郎 吉郎 五郎太 子中	綱誠側室 於福ノ方(本寿院)	元禄12 (1699)	元禄2～正徳3 25歳

蓬左文庫の蔵書印

その21. 人 見 奈
樋 口 好 古

織 茂 三 郎

人見璣邑^{あつし}（奈・通称弥右衛門）と樋口好古（通称又兵衛）は、江戸中期から末期にかけての尾張藩を代表する良吏で、人見は内政の面、樋口は地方^{じかた}においてすぐれた行績をあげた。今回は、この二人の蔵書印についてとりあげる。

人見の号「璣邑」は、出身地の「児玉村」にちなんだといわれる。九世宗睦のいわゆる尾張中興の治を助け、明倫堂の建設などにも努力したが、他方、神社・仏閣などにも配慮し、昔から国府宮の社人が通行人などに乱暴

をはたらく例があるのを禁止した。「紀国府宮祭有捕人之儀禁遏始末」に、その顛末が、自筆で記されている。（注。本書の初めにある「紀」は、記すと同義で、紀州のことではない）そのほか、詩や歌のたしなみもあり、「人見奈国歌及文」自筆本三冊が本文庫にある。人見の印記「人見奈」は、この「国歌及文」におしてある。まるくやや小形、線は肉太で、複雑なのでかなり読みにくい。次にあげる樋口の長方形で厚みのある「知足斎」印とまったくおもむきをことにしている。直径22mm。

次に樋口は、全国的にも知られる「地方行政」の大家で、ながらく藩の大代官をつとめ、かれ自身は「司農府ノ監」（地方大奉行支配）と、その名著でおよそ40巻に及ぶ大作「郡村徇行記」に記している。この書は、尾張および尾張領の濃州などをもふくみ「寛文村々覚書帳」を基本とし、以後の諸文献や著者の実地調査の結果などをもとりいれた大著で、「尾張徇行記」の総称でひろく知られ、地方研究の進展に大きな寄与をしている。（「名古屋叢書続編・尾張徇行記」）

樋口は単なる役人ではなく、長い在職中に相当な学殖も積んだので、晩年に至り、書物奉行に拔擢された。

さて、樋口の蔵書印は、その「〔江州勢州〕封内徇行記」におされた長方形のやや小がたのもの。肉が厚く、また読みやすい。印面は号の「知足斎」、たて25mmよこ13mm。また、蔵書印ではないが、同書自序の最後に諱「好古」字「信夫」の二印が押されている。愛知図書館本「那古野府城志」序文の最後に「好古之印」「碩果翁」の二印が捺されているのと比べると興味深い。（「名古屋叢書第9巻」口絵写真参照）大きさは、共にたてよこ18mm。

（元名古屋市蓬左文庫調査研究員）



「人見 奈」



「好古」「信夫」



「知足斎」

★次回展示のお知らせ

武家の札法—小笠原伝書—
昭和62年1月17日(土)～3月22日(日)
(2月19日(木)・20日(金)は展示替休室)

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S . 50年刊)	3,500円	名古屋叢書三編第12巻(S . 56年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S . 51年刊)	4,000円	同 第 8 巻(S . 57年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	同 第16巻(同)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一〜三集		同 第19巻(同)	3,000円
(S . 52〜55年刊)	各 1,500円	同 第17巻(S . 58年刊)	3,000円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S . 53年刊)	2,000円	同 第 4 巻(S . 59年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S . 47年刊)	700円	同 第 9 巻(S . 60年刊)	3,000円
名古屋叢書続編総目録(S . 44年刊)	400円	同 第11巻(同)	3,000円
善本解題図録第一〜三集(S . 55年再版)	各 300円	同 第18巻(1) (同)	3,000円
日本の古典<蓬左文庫図録>(S . 52年刊)	200円	同 第18巻(2) (同)	3,000円
蓬左文庫・源氏物語図録(S . 53年刊)	300円	同 第15巻	
蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1〜No.15(S . 55〜61年刊)		―尾張方言資料集― (S . 61年刊)	3,000円
No.14 中島郡(S . 61年刊)		同 第14巻	
No.15 葉栗郡(同)	各 1,800円	―金明録― (同)	3,000円
御本印型書鎮(S . 58年製)	1,000円	同 第10巻	
堀田文庫蔵書目録(S . 58年刊)	500円	―松濤棹筆(抄) 下―(近 刊)	3,000円
蓬左文庫絵葉書< 8 枚組>(同)	300円	蓬左文庫図録(S . 58年刊)	1,500円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

利用ご案内

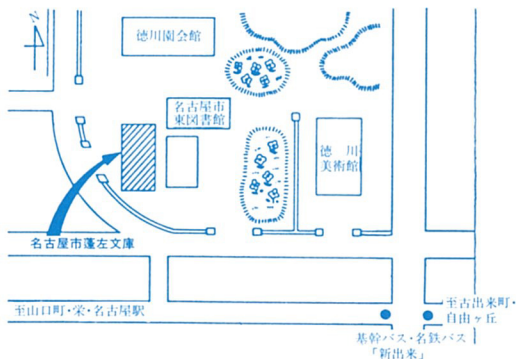
- ▷開館時間 午前 9 時30分〜午後 5 時
- ▷休館日 毎月曜日・第 3 金曜日(館内整理日)
- 祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 〃 月・火休館
- 年末年始(12月28日〜1月4日)
- ▷閲覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のないものについて複写サービスを行います。その他、マイクロフィルムの利用、写真撮影の申請を受け付けますので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(<名古屋駅から> 市バス(基2)「自由ヶ丘」「猪高車庫」行
名鉄バス「本地ヶ原方面」行
(栄から) 市バス(基2)「引山」「自由ヶ丘」
「猪高車庫」行
「新出来」下車、徒歩4分



「蓬左」第28号 ☆昭和61年10月 4日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉2-3-18)